

平成 14 年 5 月 31 日
表彰委員長
松尾 友矩

平成 13 年度表彰について

平成 13 年度の表彰を平成 14 年度の定期総会において行うこととし、機関誌「臭気の研究」（平成 13 年 9 月号）掲載により会員から表彰候補者推薦募集を行った。多数の推薦者の中から各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、以下のとおり各賞の候補者を決定した。（敬称略）

1. 功 勞 賞

功勞賞は、本会の会員であり、本会の発展に貢献若しくは臭気に関する分野において特に優れた功績を認められた個人に贈呈されるものである。

○ 石 黒 辰 吉

（社）臭気対策研究協会 顧問

（受賞理由）

当協会の前身である悪臭公害研究会設立時の昭和 44 年から約 35 年間、一貫して臭気の測定、防止技術の推進に貢献された。特にその間、当協会の社団法人化、各種講習会や学会等の運営基盤の確立、臭気測定士の国家資格化、臭気対策を主とした技術を駆使した問題解決を進め、当協会の発展に大きく貢献された。

○ 柿 本 元

日本デオドール株式会社 代表取締役

（受賞理由）

平成 3 年から 13 年までの 10 年間当協会の監事を務め、いわば創始期の財政面を主とした難題を解決し、会員の増強、臭気判定士制度設立、受託事業の増加などを通じて協会の運営全般に貢献された。

また、「悪臭防止技術の手引き（第 1～18 巻）の検討員をたびたび引き受け、手引き書の内容充実に寄与するとともに財政基盤の改善に貢献された。

2. 学術賞

学術賞は、本会の会員であり、臭気に関する論文・著作等学術的研究成果が特に優れた個人に贈呈されるものである。

○ 永 田 好 男

（財）日本環境衛生センター 環境科学部調査分析課

（受賞理由）

昭和 46 年日本環境衛生センターに入所以来、臭気の実験、分析、評価に取り組んでこ

れた。特に臭気物質の閾値についての研究に大きく貢献され、220以上のにおい物質についての三点比較式臭袋法による閾値の測定においてわが国の代表的な論文を数多く発表し、他の研究者の論文への引用や参照が最も多いのではといわれている。これらの研究は学術賞に相応しいものである。

3. 技術賞

技術賞は、本会の正会員、公共会員および賛助会員である法人会員又はこれらに所属する個人又はグループで、臭気に関する調査研究又は臭気対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる者等に贈呈されるもので次の2社に決定した。(五十音順)

○ 三協工業株式会社 代表取締役 高橋 和 靖

(受賞理由)

同社が開発された一連のニュートラマン横型脱臭装置は、コンパクトであり、処理条件に応じた設計が可能であることから融通性も高い特長を有している。また、現在250ヶ所の納入実績を持っているなど本会技術賞として相応しい貢献が認められる。

○ 株式会社 タクマ 取締役新エネ環境本部長 手島 肇

(受賞理由)

同社は産業用プラズマ脱臭装置の開発において、それまで実用化の障害とされていた電極の汚染により継続して放電を維持できないなどの問題点を解決した。これにより同装置は、産業用のみならず家庭用空気清浄器にも広く利用されるようになり本会技術賞として相応しい。